

「ゆりあげ港朝市」再建に できるかぎり協力して、 地域復興の拠点となるよう 応援していきます。

仙台商工会議所 貿易部会長
セルコホーム（株）
代表取締役社長

あらもと やすお
新本 恭雄氏

プロフィール

昭和25年3月3日生まれ。宮城県出身。
早稲田大学商学部を卒業後、49年永大産業（株）入社。53年9月
仙台土地開発（株）取締役、60年4月取締役副社長に就任。平成
5年10月社名をセルコホーム（株）に変更。11年6月代表取締役、
同年7月より現職。「最近、よく耳にするようになった言葉ではありますが、「ピンチと変化はチャンス」という言葉が昔から好きです」と話す。



カナダの支援に心えて 建築設計・監理を無償提供

「この度、東日本大震災で被災した名取市の「ゆりあげ港朝市」が、「カナダー東北復興プロジェクト」に採択され、再建されることになりましたが、このプロジェクトの概要を教えてください。

カナダ連邦政府、ブリテイッシュコロンビア州政府、カナダウッド・グループの三者が主体となり、被災地の人々がこの大規模な自然災害を乗り越えて前進するのを手助けしようと、総額で450万カナダドル（約3億5千万円）を拠出し、被災地においてカナダ産木材を使用した公共施設の再建を支援するプロジェクトです。

「御社がこの公設市場施設の建築設計・監理を無償で提供することになった経緯についてお聞かせください。」

カナダからご支援をいただくにあたり、「対象は公共施設に限定する」という条件がありました。今回再建することになった「ゆりあげ港朝市」は運営会社が関与港朝市共同組合ですので、本来ならば該当しないものだったんです。しかしこの朝市は、震災前は年間20万人のお客様を集めるほど人気がありましたし、たくさんの方に親しまれていた実績も認められ、再建計画が採択されました。私もこの朝市が人々の交流の場となっていたことは知ってい

ましたので、地域の復興を考える時、何とか再建できないものだろうかという思いでございました。そんな折、カナダの建材メーカーなどが加入する団体のカナダウッド・グループから、弊社に「被災地支援プロジェクトに該当するような候補案件はありませんか」と打診があったわけです。と申しますのも、私どもはカナダ住宅の販売を通じて、カナダとは20年以上のお付き合いを続けてきました。それが今回、弊社がこのプロジェクトに参画することになった理由です。

その後、弊社と名取市が協議し、同プロジェクトに公設市場の再建を共同申請、採択されました。カナダの人たちの気質は、私たち東北人と似ているといえます。か、私個人としては、彼らの心の交流を大切にしたい姿勢に触れるたび、私たち東北人とよく合う、という印象をもちます。

ウィークデーも 楽しめる朝市に

「再建される「ゆりあげ港朝市」の内容を教えてください。」

カナダ側からの同プロジェクトへの支援金額は、約150万カナダドル（約1億2千万円）で、それは建築費用に充てられ、常設の建物が名取市に寄贈されることになっています。市有地約5,100㎡に建設されるのは、カナダ産の木材を使った木造平屋のセン



5月14日、旧朝市会場で行われた調印式に臨む新本氏（左から2番目）。挨拶をしているのはカナダ・ブリティッシュコロンビア州政府のクリスティ・クラーク首相

ターハウスと店舗棟4棟で、延べ床面積は1,110㎡になる予定です。魚介類や水産加工品の店舗が入居して、フードコートも新設されることになっており、着工は8月末から9月初旬、来年3月末の完成を目指しています。

朝市を運営するのは閉上港朝市協同組合で、閉上地区の復興計画で非居住区域となる産業観光ゾーンに進出する初のケースとなります。これが完成すれば、土日や祭日だけではなく、平日でも寿司や魚介類などを使った食事ができるようになるんですよ。それから魚屋常設ゾーンは、魚をさばく場所と販売する場所が対面式になっているので、お客様と対話をしながら、豊富で新鮮な魚介類を販売できます。

「新本社長ご自身は、もともと名取市や閉上とつながりがあったのです。特別なつながりはありませんでしたが、輸入住宅販売を始めた当初から、弊社のお客様は沿岸部に多かったんで

す。その理由を考えると、はるか昔にさかのぼるのですが、沿岸部の方々は古くから外国との交易が盛んでしたから、新しい文化に慣れるのが早いのではないのでしょうか。私たちは約20年前から輸入住宅を提供しておりますが、当時は珍しかったものをいち早く受け入れてくださったのが沿岸部の方々でした。

時代は変わり、今や日本の家もそのほとんどに輸入木材が使われるようになりました。従って、港に近い海岸沿いに材木工場や合板工場が多く設けられるようになり、今回の津波で壊滅的な被害を被って資材が不足してしまっただけです。

そのような状況にあっても、弊社が宮城県内の業者としては、最も多くの仮設住宅をつくることができたのは、カナダから直接、品物を手配することができたからなのです。カナダの協力を得て、最初の200棟分を震災発生から二週間で発注。東北沿岸の港が使用できないので、大型トラック100台分の材料を神戸港から陸送し、膨大な経費がかかりましたが、地元で貢献できたのですから、それだけで良いと思っています。

うれしかったのは、震災前に契約を結んだ施工途中のお客様達が、自分の家よりも仮設住宅の建築を優先することに同意してくださったことです。しかも遅延損害金をお支払いできない状況も、「お互い様だから」と快諾してくださったのです。私は今回、「お互

い様」という言葉が今まで以上に好きになりました。

賑わいを生み出し 名取市復興の核に

「今後、どのような場になっていくことを望んでいますか。」

もともと繁盛していた場所ですから、地元の皆さんはもちろんのこと、お隣の福島、山形からお客様を集められるような規模になっていくのではないのでしょうか。実はカナダのブリティッシュコロンビアにも、これに似た例があるんですよ。規模はカナダの方がかなり大きいのですが、都市計画の成功例としてお手本にするのもいいかもしれませんね。この場所が名取市復興の拠点となり、賑わいを創出していく場所になるよう、これからも精一杯、応援していきたいと思っています。

【概要】 セルコホーム株式会社

設立：昭和34年10月13日
資本金：1億円
代表者：代表取締役 新本 恭雄
売上高：110億円(平成23年9月期)
社員数：179名(平成23年10月1日現在)
事業内容：住宅の建築請負(輸入住宅他)から賃貸アパート・マンションの管理、リフォーム工事、不動産流通などを全国で展開。
所在地：仙台市青葉区上杉2-1-14
TEL.022-224-1111
主要事業所：国内7・海外1支店(カナダ)他、全国パートナー加盟会社76社(平成23年10月1日現在)
ホームページ：<http://selcohome.jp/>

街

やさしい気持で暮らせるように……。

たくさんの方が集まり、働き、笑い、泣き、そして暮らしてゆく空間、『街』…。そこで人々が明るく、健康に、そして何よりやさしい気持で暮らせるように、快適な都市環境をつくって行かなくては…。私たちはそう考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全
本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)